

1 学校教育目標

- 心豊かで思いやりのある子ども ○自ら進んで考え、工夫する子ども
- 健康でねばり強い子ども ○たがいに協力し、進んで実行する子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	確かな学力と豊かな心、健やかな体を本気で育てる学校 ○学力を定着させる学校 ○豊かな人間性をはぐくむ学校 ○体力・運動能力を高める学校 ○家庭・地域が協力し合う学校 ○組織的に教育活動を展開する学校
○児童・生徒像	○心豊かで思いやりのある子ども（あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子） ○自ら進んで考え、工夫する子ども（自ら考え、自ら学ぶ意欲を身につける子） ○健康でねばり強い子ども（健康で、我慢強く最後までやりとげる子） ○たがいに協力し、進んで実行する子ども（自分で考え自分で判断し自分で行動し責任をとることができる子）
○教師像	○プロ意識をもち、教育活動を生き甲斐と感じる教師 ○子どもと共に自ら伸びようと努力し続ける教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

新型コロナウイルス感染防止策を徹底しながら、児童の学びを保障するために最大限の努力をしている。

【令和2年度の成果と課題】

1 学力向上アクションプランについて

○数値目標 令和2年度足立区学習定着度調査 区平均通過率 2教科80.9%

○実施結果 令和2年度足立区学習定着度調査 花保小通過率 2教科81.7%

【課題】 通常登校後の日々の時数増、非常事態宣言発令等によって、補習を行う時間が少なく、学力の定着に課題があると考えます。

【対策】 パワーアップタイムや放課後補習の時間にミニプリント等に取り組みせ、習得・習熟を図る。

【結果】 11月の再調査では、全学年、国語、算数の通過率を90%に向上させた。

【全体】 令和3年2月に新学年の学力調査をプレ実施し、令和3年度の学力調査まで、個々の課題について習熟を図った。

【総括】 6年連続、区の平均通過率を上回った。令和2年度は、中学1年生の区学力調査でも、本校卒業生は好成績であった。足立区のボトルネックのひとつ「学力」において中学校によりよい「学力」のバトンタッチができたことを嬉しく思う。

2 教師の指導力向上について

○成果目標 教師一人一人の指導力の向上

○達成基準 教師一人一人の指導力の向上（OJTガイドラインに基づく教師一人一人の育成段階ごとの目標達成）

東京都OJTガイドラインで求められている目標を達成するために、各教員の職層と経験年数、資質と能力から、個に応じた指導や助言を行った。若手教員には各教科で「あだちスタンダード」の授業ができるように、管理職と足立区教科指導専門員で継続的な指導を行った。特に、「算数」では、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開の指導法が継承されている。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図れた。授業改善には次年度もOJTも含めて強化していく。

3 心の教育の充実について

○成果目標 児童一人一人の心の成長

○達成基準 QU数値の向上

○実施結果 学級生活満足群の学年集計 令和2年12月実施（2回目）

1年生72%（全国42%）2年生64%（全国42%）3年生66%（全国42%）4年生45%（全国43%）5年生64%（全国43%）6年生78%（全国43%）

一人一人が自分自身のリーダーになり、自信をもって、実りある充実した人生を送れるようにするために、「リーダー・イン・ミー」を心の教育の柱として推進した。また、QU調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。管理職と学年とのデータに基づくミーティングを定期的に行い、児童個々に対する方策を練らせた。データに基づく声かけや励まし等で、児童の自己肯定感が高まってきている。一層の心の教育を推進する。

4 保育園・幼稚園・中学校との連携

○成果目標 保育園・幼稚園・中学校と連携を密にし、入学時・卒業時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。

○実施結果 保育園・幼稚園との連携

コロナ禍の対応のため、直接交流は制約されたが、本校が連携する5つの幼稚園と保育園で連絡会議が実施でき、その後も情報交換や職員交流ができた。

○実施結果 花保中学校との連携

コロナ禍の対応のため、活動の制約はあったが、可能な限り職員が交流し互いの学校状況を把握できた。花保小学校卒業生の学力調査の結果が良かったことから、これまでの連携の成果として互いに自信を深めることができた。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	教師の指導力向上	○	○	○	○	○
3	心の教育の充実	○	○	○	○	○
4	保育園・幼稚園・中学校との連携	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン		
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
足立区平均通過率と同水準を達成する。	足立区学力定着度調査 目標通過率 区平均数値	数値目標である区平均通過率84.0%を超え、89.1%と目標を達成した。7年連続で区平均通過率を上回った。	・区調査において達成基準を上回ると同時に、本校の学力向上の成果を、多くの卒業生が進学する花保中学校の学力調査にも反映することができた。 ・学習の定着状況と具体的な取組は6(1)参照	◎

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 改善	学力向上 児童理解 対策会議	学年単位	①4月 ②6月 ③11月 ④1月 ⑤随時	【指導者体制】 管理職・学力向上委員長 【取組みのねらい・目的】 学力結果、QU結果の分析と対策 左記時期と対応 ①前担任→現担任 ②③学年単位で個別分析 ④上学年→下学年 ⑤該当学年、該当学級	学力調査 再調査 プレテスト QU調査 (2回)	目標通過率 学級生活満足 群の割合向上	計画通り、年間を通して、対策会議を行い、各学年の学力と各学級のQU状況を把握した。児童個別の具体的な手立てを検討し実行することができた。	・学力とQUの状況とその対策について、適切な助言と進行管理を行うことができた。	◎
2 改善	朝学習 (パワーアップタイム)	全児童 国語 算数 読書	毎週火 (読書) 毎週水 (漢字) 毎週木 (算数) 開始時刻厳守	【指導者体制】 担任 【取組みのねらい・目的】 ・学習内容の復習・基礎学力の定着。 ・読書に親しむ。読む力を伸ばす。 【使用教材】漢字プリント、東京ベーシック診断シート・次へのステップ・その他計算等のプリント学習	・東京ベーシック診断シート、及び次へのステップなどのミニテストを実施。 ・保護者の学校評価における数値向上。	・年度末までに東京ベーシック診断シート正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上の結果。 ・読書量の増加。	東京ベーシック診断シートで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上を達成した。	・開始時刻に学級差があった。 ・低学年は特に100マス計算等の基礎基本を繰り返し行ったことで、定着が図れている。 ・下位層は、個々のレベルに合った基礎基本問題に取り組みさせることが必要である。	○

3 継続	花保ステップタイムと放課後学習	全児童 国語 算数	花保ステップ 毎週水 5校時 放課後 週1回	<p>【指導者体制】 担任、副担任の専科教員、学習支援員</p> <p>【取組みのねらい・目的】 学習内容の復習・基礎学力の定着。</p> <p>【使用教材】漢字プリント、東京ベーシック診断シート・次へのステップ・その他計算等のプリント学習。</p>	東京ベーシック診断シート、及び次へのステップなどのミニテストを実施。	年度末までに東京ベーシック診断シート正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上の結果。	毎回のミニテストで正答率80%以上を達成。放課後学習を計画通り実施できた。特に、つまずきのある児童に対し、課題を精選した指導ができた。宿題の提出率も向上した。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を繰り返し行ったことで、学力の定着が図れている。 ・応用問題への取り組みも必要である。 ・下位層は、個々のつまずきに合った問題に取り組ませることができた。 	○
4 継続	放課後補習	全学年 国語・算数 学力調査 正答率50%以下の児童	個人面談実施可能時	<p>【指導者体制】 算数少人数・専科教員・学習支援員・ボランティア</p> <p>【取組みのねらい・目的】 個々の課題の補充指導。</p> <p>【使用教材】国語・算数のプリント学習。</p>	プリントを担当に見せて、理解の状況を伝える。	個々の課題のプリントで正答率10ポイント改善。	6日間実施できた。個に応じた指導を重ねることで、正答数が増えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の確保が難しかったが、個々の課題に対応した指導を行うことができた。 	○
5 改善	家庭学習ノート	全児童 学年の状況により順次実施する。	毎日	<p>【指導者体制】 担任が評価しコメントを記入。児童に「家庭学習の手引き」を配付、保護者にも協力を依頼する。良い内容ノートを紹介する。教員間レクチャーを実施する。</p> <p>【取組みのねらい・目的】 自学の習慣・「書くこと」に慣れさせる。</p>	宿題提出状況を担任が記録。	宿題提出率90%目標。	宿題はほぼ全員が提出している。	<ul style="list-style-type: none"> ・未提出家庭に協力をお願いしているが難しい。主に担任が休み時間や放課後等に取り組ませている。 ・学級間での差がないようにしたい。 	○

6 改善	そだち指導員保護者面談	対象児童	年2回	<p>【指導者体制】 そだち指導員2名。</p> <p>【取組みのねらい・目的】 児童別の保護者授業参観と個人面談を実施する。授業の様子を知らせ、家庭学習について協力を依頼する。</p>	週案で確認。	実施し、保護者に理解を得る。	学力調査の再調査で20%以上の伸びを見せる児童もおり、授業に対する意欲も向上している。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導対象者の通過率の向上によって、そだち指導の効果が見られた。 ・そだち指導員の熱心な指導の成果である。 	◎
7 改善	ICTの活用	全児童	毎日	<p>【指導者体制】 全教員</p> <p>【取組みのねらい・目的】 全教員がICTを活用した授業を推進し、児童が「学び合い」等で、思考を深める活動ができるようにする。</p>	週案や授業観察で確認。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用で効果がある指導内容時の活用率100%。 ・児童自らが活用できる。 	全教員が毎日の授業で、有効に活用していた。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のために、これからもICTの有効活用を図っていく。 	○
8 改善	MIM	1学年児童	毎月	<p>【指導者体制】 1年担任、日本語指導</p> <p>【取組みのねらい・目的】 特殊音節の定着（読み・書き） 読みの流暢性を高める。</p>	毎月、アセスメントを実施する。	年度末までに1stステージ80%以上 2ndステージ20%以下	感染対策で個別取り出し指導が難しかった。 1stは70%、2ndは11%、3rdは11%であった。	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の授業の中でも特殊音節の反復練習を取り入れ、さらに定着を図っていく。 	○

9 継続	かけ算九九検定免許証制度	2学年以上の全児童	5月～2月	<p>【指導者体制】 検定者は、管理職、算数少人数担当者。指導は、担任と算数少人数担当者。</p> <p>【取組みのねらい・目的】 ゴールド、普通免許制度の工夫で全員が確実に暗唱。</p>	学力向上委員長と担任が連携して記録し、管理職に提出する。	全員合格。	3年生以上のゴールド免許は、各学年、50%から60%であった。約10%が普通免許を取得できていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点での更新状況から判断すると習得していない児童がいる。更新制度の徹底を図り、完璧に覚えさせる必要がある。 ・かけ算の学習について、系統性を重んじて見直していく。 	○
10 継続	パンダとコアラちゃんからの挑戦状漢字テスト(校長と副校長)	全児童	年10回 4月から	<p>【指導者体制】 管理職、学習支援員、スクールサポートスタッフ、担任。</p> <p>【取組みのねらい・目的】 前期は前学年の漢字復習後期は現学年の漢字復習月1回確認テストを行い、基礎学力の定着を図る。</p> <p>【使用教材】プリント教材</p>	全問合格した児童に毎回賞状を直接渡す。合格するまで再テストを実施し、賞状を渡す。	全員100%目標。	校長からの表彰者(1回での合格者)は、学年平均で60%であった。字のきれいさも評価したところ、字が上手に書ける児童が増加した。	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した漢字を定着させるために、既習漢字は日常的に使えるように指導していく必要がある。 ・学年、学級にばらつきがあった。 	○
11 継続	春休みだよ！パンダとコアラちゃんからの挑戦状	全児童	3月4月	<p>【指導者体制】 管理職・担任</p> <p>【取組みのねらい・目的】 春期休業中に、前学年の復習を家庭で行わせる。</p> <p>【使用教材】学力調査問題</p>	正答率80%以上の児童に賞状を渡す。	区学力調査で目標を達成する。	春季休業中に、自ら復習を行うことで既習事項の定着を図れた。	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度の進級学年の担任が児童の学力状況を把握できた。 	○

重点的な取組事項－２		教師の指導力向上				
今年度の成果目標		達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
教師一人一人の指導力の向上		教師一人一人の指導力の向上 (OJT ガイドラインに基づく教師一人一人の育成段階ごとの目標達成)	全体的に向上しているが、伸長に個人差がある。		先輩教員と教科指導専門員の指導、各教員の向上心によって全教員の授業力が向上した。	◎
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度	
ICT 活用指導力の向上 校務の情報化による校務の負担軽減	○情報活用能力を身に付けさせる授業の実施 ○校務の情報化による負担軽減の実感	○情報化指導研修の実施。 ○ICT 環境の整備 ○出欠、成績、保健等の情報や図書等の管理、指導計画や指導案、デジタル教材、学習履歴等の情報化	○校内組織を9月から改編し、情報教育部を設立し、ICT の推進を図ることができた。 ○授業での活用が図れた。	・低学年児童のタブレットの習熟を図る必要がある。 ・校務の負担軽減を図りたい。	◎	
資質向上	○都OJTガイドラインで求められている経験年数、職層に応じた目標の達成 ・職層に応じた職務の遂行	○校長レクチャーの実施(年度当初) 教職員研修資料の改訂 ○転入・新規採用教員研修と若手教員養成塾の実施。 ○自己申告書・面接の重視(目標の明確化・学力・QU)	○年度当初の若手教員による転入教員・新規採用教員研修によって若手は自信をつけ、転入者は本校の課題をいち早く理解した。 ○管理職による計画的な学年面接と個人面接及び、日々の指導、助言によって、教員の資質・能力を高めることができた。	・教職員の同僚性が高く、向上心をもって教育活動を行っている。この学校文化から個々の資質を高めることができている。この学校文化を継続させたい。	◎	
指導力・授業力の向上	○足立スタンダードによる授業の確立。 ・「めあて、まとめ、振り返り」100% ・管理職による授業評価 4段階B以上。 ・特殊音節の継続的な指導(MIMの理解と指導)	○区委員等による足立スタンダード、MIM研修の実施 ○学校及び学年共通指導 ○区教科指導専門員の指導 ○授業分析 板書撮影と逐語記録 ○管理職の授業評価と指導・助言 随時 ○区小研への全員参加	○管理職による授業評価は平均B以上。初任者は継続的指導が必要。 ○教科指導員からの指導計画と進行管理をコーディネーターとして主幹教諭が担当した。適切かつ効果的な体制で、授業力を高めた。	・算数の授業においては、全教員が足立スタンダード型の授業を行うことができている。 ・区教科指導専門員が若手教員に的確かつ継続的な指導を行い、授業力改善に大きな成果をあげた。	◎	
英語教育の推進	○英語が大好きな児童を育成する。	○教科書を踏まえた足立区作成 単元指導計画及び学習指導案の活用 ○外国語アドバイザー、講師、AETを活用した授業の充実	○担任と外国語アドバイザー、外国語講師との連携が深まり、授業レベルが向上した。 ○英検サポートプログラムを導入し体制を構築できた。	・英語が大好きになっている。外国語講師の奮闘で、学校全体が外国語に慣れ親しむ良い雰囲気となっている。	◎	

重点的な取組事項－3		心の教育の充実			
今年度の成果目標	達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
児童一人一人の心の成長	QU数値の向上	QU1回目学級生活満足群 64% QU2回目学級生活満足群 68% (全国平均42%～43%)		これからも一人一人の児童にとって、いごちのよいクラスにしていく。	◎
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育の充実 道徳授業の充実 いじめ防止	○QU調査の2回目の結果での「学級生活満足群」数値割合の向上 ・百人一首大会の実施 ・17宣言の浸透 ・いじめゼロ	○全校朝会での講話 ○QU調査の2回実施と分析 ○「リーダー・イン・ミー」教育の日常的な推進 ・共通用語での共通指導の推進 ・サンクスカードの通年実施 ・あおぞら教室での指導	○2回目のQU調査では、学級満足群に属する児童が4%向上した。全国平均と比較しても20%高い。 ○「道徳」とともに、全学級で「リーダー・イン・ミー」の授業を行い、「心の教育」を推進できた。 ○サンクスカード、信頼貯金で自己肯定感を高めることができた。 ○いじめ防止対策委員会を随時実施し機能させた。「いじめアンケート」を実施するなど年間を通して「いじめ防止」の指導を行った。 ○代表委員会による児童自らの「いじめ防止キャンペーン」を実施した。	・「リーダー・イン・ミー」を心の教育の柱として、全教職員で実践した。この研究及び多くの手立てによって確実に児童の非認知スキルを高めることができた。 ・研究を通して、「ポーズ」、「ゴール」、「信頼貯金」「シナジー」の共通ワードが生まれた。次年度も継続し生かしていく。	◎
無言清掃	○無言清掃の定着	○強化週間の実施	○完璧な無言ではなく、最小限の声かけ等で、落ち着いて安全に清掃に取り組めた。	・静かに黙々と清掃することで、心穏やかに過ごせる学校になっている。	○

重点的な取組事項－４		保育園・幼稚園・中学校との連携			
今年度の成果目標	達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
保育園・幼稚園・中学校との連携を密にし、入学時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。	幼保中と連携して教育を進め、下記の２項目を達成する。	<p>コロナ禍で制約の多い活動となったが、保育園・幼稚園との連携園とは、連絡会を通して課題を共有化することができ、教職員交流と園児の小学校体験が実施できた。</p> <p>花保中学校との連携 信頼関係が深まり多くの情報交換を行うことができた。</p>		今後ともそれぞれとの連携を深めていく。	○
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保育園・幼稚園との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○円滑に小学校生活をスタートすることができ、4月中に小学校生活に慣れる。 ○学びにつながる生活習慣を身に付けさせるために、連携園と共通テーマを決めて実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校スタートカリキュラムに基づいた週案簿の作成 ○4月入学時実態調査の公表 ○連携保育園・幼稚園 <ul style="list-style-type: none"> ・卒園児状況参観（4月） ・校長講話（園保護者対象） ・花保小エリア園長会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○連携園と連絡会議を通して、課題の共通認識と取り組み内容を確認できた。 ○コロナ禍であったが、担当教員同士の交流研修が実施でき、保育園児も「学会」の参観、施設見学や授業体験を通して、小学校進学への期待感を高めることができた。 	・「してよいことや悪いことがあること」に気づき、考えながら行動できる子を育てるために、一層の共通指導を行っていく。	○
花保中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○授業力を高めるための研究交流授業の実施 ○見学、交流活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観と協議会 ○児童・生徒の状況についての情報交換・調整会議（随時） 中学校見学と部活動体験 ○中一合宿の教員派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の学力向上の成果を、足立区立中学校全進学者の中1区学力調査の結果に反映することができた。 ○花保中学校の通過率は区の平均通過率よりも、国語は3.1%プラス、数学16.3%プラス、英語1.82%プラスと本年度も上昇した。 ○交流では、コロナ禍のために制約が多かったが、6年生の中学生体験、部活動体験などが実施できた。 ○研究授業と内容の濃い協議会を通して、授業力の向上が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中2、中3の学力調査結果の推移に着目していく。 ・昨年度に続き、花保小学校の学力向上の成果を顕著に中学校の成績に反映できたので、中学校からの信頼を深めることができた。 	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

1 学力向上アクションプランについて

○数値目標 令和3年度足立区学習定着度調査 区平均通過率 2教科84.0% ○実施結果 令和3年度足立区学習定着度調査 花保小通過率 2教科89.1%

【課題】全学年とも平均正答率、通過率ともに区の平均と目標値を上回っている。国語においては、問題を正確に読み取る力を伸ばす必要がある。高学年の算数では、定着度に差がある問題があった。また長い文章問題の正答率が低い傾向にあった。

【大対策】国語も算数も授業中に「読む」「書く」「話す」に重点を置き、言語環境を整える。

【対策1】児童一人一人の学習内容の定着状況を常に把握し、つまづきがあった場合は、すぐに個別指導を行い解消させる。

【結果】10月の再調査では、全学年、国語、算数の通過率を90.1%に向上させた。

【対策2】進級年度の学力調査で区の正答率が低かった単元や問題について情報を共有し、前年度の授業で丁寧に扱った。

【対策3】令和4年2月に新学年の学力調査を実施し、令和4年の学力調査までに個々の課題について習熟を図る。

【総括】7年連続、区の平均通過率を上回った。令和4年度は、令和3年度に続き、中学1年生の区学力調査でも、本校卒業生は好成績であった。足立区のボトルネックのひとつ「学力」において中学校によりよい「学力」のバトンタッチができたことを嬉しく思う。

2 教師の指導力向上について

○成果目標 教師一人一人の指導力の向上

○達成基準 教師一人一人の指導力の向上 (OJT ガイドラインに基づく教師一人一人の育成段階ごとの目標達成)

東京都OJTガイドラインで求められている目標を達成するために、各教員の職層と経験年数、資質と能力から、個に応じた指導や助言を行った。若手教員には各教科で「あだちスタンダード」の授業ができるように、管理職と区教科指導専門員で継続的な指導を行った。特に、「算数」では、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開の指導法が継承されている。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図れた。授業改善には次年度もOJTも含めて継続していく。

3 心の教育の充実について

○成果目標 児童一人一人の心の成長 ○達成基準 QU数値の向上

○実施結果 学級生活満足群の学年集計 令和3年11月実施(2回目)

1年生63%(全国42%) 2年生76%(全国42%) 3年生70%(全国42%) 4年生69%(全国43%) 5年生63%(全国43%) 6年生67%(全国43%)

一人一人が自分自身のリーダーになり、自信をもって、実りある充実した人生を送れるようにするために、「リーダー・イン・ミー」を心の教育の柱として推進した。また、QU調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。管理職と学年とのデータに基づくミーティングを定期的実施し、児童個々に対する方策を練らせた。データに基づく声かけや励まし等で、児童の自己肯定感が高まってきている。一層の心の教育を推進する。

4 保育園・幼稚園・中学校との連携

○成果目標 保育園・幼稚園・中学校と連携を密にし、入学時・卒業時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。

○実施結果 保育園・幼稚園との連携

教職員同士の交流研修が実施できた。また、保育園児の学芸会参観、施設見学、授業体験を行うことができ、小学校入学への期待を高めることができた。

○実施結果 花保中学校との連携

コロナ禍で活動の制約はあったが、研究授業と実り多い協議会を相互に行うことができた。昨年度に比べ、授業力の向上が図れる連携活動ができた。花保小学校卒業生の学力調査の結果が良かったことから、これまでの連携の成果として互いに自信を深めることができた。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

コロナ禍が収束せず、保護者の皆様には休業や分散登校、行事の制約等で大変ご苦勞をおかけしました。しかし保護者の皆様には、本校の教育方針や教育活動、突如の行事や公開の変更についてもご理解いただき、常に冷静かつ辛抱強く対応していただきました。心から感謝しています。

このように「大人としてのお手本」を見せてくださっている姿が常に花保小学校にあることが、児童の落ち着きにつながり、本校の目に見えない校風になっていることを嬉しく思います。私たち教職員も日常の学校生活や行事で、感染防止対策を万全にしながらか実施できるように工夫してきました。運動会や学芸会、1・2年生の遠足、3・4年生の社会科見学、鋸南自然教室と日光自然教室の宿泊行事も実施でき、心に残る思い出も多くできたと思います。

令和4年度は、創立50周年を迎えます。本校はまだ成長できる学校です。これからも、一人一人の子どもに寄り添い、個々のよさと可能性を認め、伸ばさせることをすべての教育活動の根幹とし、豊かな人間性の育成のために努力して参ります。また、子どもが分かる楽しさと、できる喜びを十分に感じる授業を推進します。保護者の皆様、地域の皆様と共に子どもたちの成長を考え合い、三者が一体となった教育を進めたいと考えています。そして、保護者の皆様には、「花保小学校に通わせていることに誇りがもてる学校」、在校生にとっては学校生活に希望をもち「わくわくする学校」、卒業生にとっては「花保小学校を卒業したことに誇りがもてる学校」にしていきます。令和4年度もこれまで同様に本校の教育活動に対してご支援をお願い致します。

(3) その他（学校教育活動全般について）

学校での生活規律や学習規律の徹底を教職員全員で取り組み、思いやりのある心を育て、学力をしっかりと身につけさせるように真剣に努力しています。具体的には、

- ① 「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する。そして責任をとる。」ことの大切さの呼びかけ。
- ② 朝会では、指示や号令なく整列させ、表彰の機会を多くする。
- ③ 一斉放送の際に全児童が全行動を停止して放送を聞く態度の確立。
- ④ 廊下歩行、右側歩行の徹底 「廊下はね、走っちゃだめだめ 花ほっ子」。
- ⑤ 自分で考えて学校を綺麗にする「無言清掃」。
- ⑥ 「QU調査」を年2回実施し、あたたかな人間関係づくりを行う。
- ⑦ 人のために役立つ喜びを実感させる「サンクスイヤー」。
- ⑧ 思いやりのある言葉「ふわふわ言葉」の奨励と「ちくちく言葉」の撲滅。
- ⑨ 教員も子どもたち同士も「おまえ」とは言わない。⑩ 名前を呼ぶときは、教員も子どもたち同士も基本的に「さん」付けで。
- ⑪ 自己肯定感を高め、生きる力を育む「リーダー・イン・ミー」の推進。
- ⑫ みんなで考えたわたしたちの学校目標と「17宣言（いいな宣言）」に基づく行動。
- ⑬ 朝の「あいさつ運動」と子ども同士のあいさつの奨励。
- ⑭ 学習により集中させるための花保教室環境スタンダードの全教室展開（ユニバーサルデザイン）。
- ⑮ 学習にふさわしい服装や身だしなみ。⑯ 学習に必要なものだけを机の上に用意する約束 えんぴつ3本と消しゴム1つ。
- ⑰ 朝のスタートを円滑にするための登校時間の設定 8時から8時10分まで。
- ⑱ 区の学力調査結果の分析と基礎学力定着のための復習テスト。
- ⑲ 帰りの会後に行う補習の実施。
- ⑳ 家庭学習の充実。

など多くのことを取り組み、数値では測れない全体としての学校力も向上していると思います。さらによりよい学校にするために令和4年度の「花保小学校」を構想していきます。